

## (どうせなら)



入社したての若い頃、お得意さんに強引にせがまれてキャッチバーに行ったことがあります。行ったというよりストリートキャッチ、つまり、捕まったというか。今で言う「キャバクラ（キャバレークラブ）」の強引なヤツです。

入って30分ほど居て、水割りを一杯とクラッカーをひと皿頼み、ホステスさん達はトマトジュースを一杯ずつ飲んだだけで当時の僕の給料一ヶ月分の1.5倍のお金をふんだくられました。無論そんなお金は持ち歩いていませんから、陰に潜んでいた怖いお兄さん達に脅されるまま、翌日銀行振り込みで支払いました。

とにかく入社したばかりで右も左も分りませんから、まず自分の会社にこんな大金は請求できないだろうと思い、お客さんにも請求できそうもないとも思い、結局自腹で払ったわけです。

そんな経験が最初にあったので、そういうところはそれ以降現在に至るまで、絶対に近づきませんでした。

「行けばだまされる。だまされてたまるもんか!!」と。

しかし、最近少々考え方が変わってきました。

「ま、いいか。たまにはだまされるのも」

どんなに神経を張り、アンテナを立て、矯めつ、眇めつ警戒したところで、どうせ相手は何枚も上。どのみちだまされる。それなら、はじめっからだまされるつもりで、思いっきり甘い夢を見てもいいんじゃないか？変に瀬戸際で突っ張って堰き止めるより、流されるまま行き着くところ、下流の河口まで流されきっていった方がましなんじゃないかなあ？と思い始めたのです。

別にこの手の筋の話しだけではなくて、おおよそすべての事柄においても、です。

なんか、歳を重ねる毎に、小利口になってしまった自分がだんだん嫌になって、羽目を外しなくなっているのかもしれない。